



**各事業所やフロアーに掲示**

## **永 寿 会 通 信**

# **黄色い飛行船 第12号**

2016年 7月12日

法人事業のサービス内容の向上のために！

先日、4月20日の放送された番組の再放送で、「総合診療医ドクターG」という番組を見ました。司会は浅草キッド（玉ちゃん、水道橋博士）で、スタジオゲストはスギちゃん、ドクタージェネラルは日本の総合診療を牽引する京都の音羽病院の神谷医師で進行されていました。研修医は男性が大阪の田下医師、東京の町田医師、女性が岩手の國時医師が指導を受けました。

この番組では閉経直前の女性が仕事の中で、尻もちをつき、圧迫骨折2か所した骨粗鬆症なった症例を題材にして、その原因や診断さ探る展開でしたが、この展開の過程が非常に参考になることに気付き、見入ってしまいました。展開の段階は次の通りです。（1）本人の主訴を全てしっかり把握する。（2）症状に対応した病名を仮定する。（3）その病名の場合の検査、相関関係をチェックする。（4）照合する。（5）正確な診断内容と治療方針を立て、治癒に向け、取り組む。この展開でした。そこには医学の勉強成果や経験、患者への質問等を組み合わせながら学ぶ過程が明確に表現されていました。それは見事な展開で訝しげる点は微塵もなく理解できました。最初は主訴を可能な限り集め、過去からの経過を確認し可能性のある病名を幾つか挙げ、その場合の特徴や症状を検証し、矛盾のあるものを排除し、正確なものに迫る展開でした。

このプロセスは私達の福祉サービス展開においても活用できると思います。ご利用者や御家族、家庭を対象として社会の中で、しっかり生き抜いて頂いたり、充実した人生を生きて頂くため、環境を分析したり、要望を整理したりして適切なサービスを提供するためには参考にして貰いたいと思います。

こちら側の思いやお仕着せだけでなく、相手側の要望や必要性を十分把握し、私達が持っている最良の能力や方法を組み合わせることで事業を展開したいものです。

法人永寿会の各事業ではそうした姿を示していきましょう。

なお、この女性の病名は「副腎性クッシング症候群」で、副腎に良性の腫瘍があり、これに起因して骨粗しょう症の症状が出て骨折をしたので、腫瘍を手術で取り除き、仕事に復帰していました。医師に求められる能力には厳しいものがあるな一というのが印象でした。

以 上